

●◇ 図書室紹介 ◇●

姫路赤十字病院 図書室

安東 正子

当院は平成 13 年 11 月に新築移転いたしました。建物は美しく、テレビドラマの撮影でも出来そうな内装に当初は大変感動しました。さて、現実には立ち戻りますと、新図書室は以前より面積が随分と狭くなりました。私が 3 年前、図書室担当となったときには大方のレイアウトも決まり、変更の余地はない状態でした。しかし、平面でなく立体的に考えてみると、図書室というより書庫のようになってしまうことがわかり、修正できる範囲で「図書室らしく」なるよう、ない知恵を絞りました。

一番頭を悩ませたのが雑誌架です。書架は移動書架（複式 10 連、14,000 冊所蔵可能）の設置が決まっており、図書室の半分を占めます。残りの半分に雑誌架と閲覧机、書棚、コンピュータ 2 台等を置くわけですが、定期購読雑誌は和、洋合わせて 216 誌あり、既存のものを持っていくと閲覧机を置く場所もなくなります。そこで雑誌架は棚式のものを作り、場所をとらないようにしました。

さらに利用者が図書室を狭く感じないように、雑誌架を含め、備品はすべて目線より下の高さとし、室内のあちこちに椅子を配置して閲覧スペースを増やすよう配慮しました。

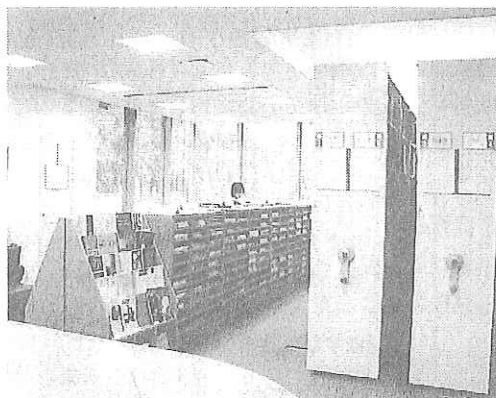
とりあえず、心静かに勉強できる環境にはできたと思います。図書室に対する私のこだわりの一つです。図書室紹介をするつもりが、苦労話になってしまいました。移転関連の話は多すぎて語り尽くせません。

蔵書は、単行本 20 年、製本雑誌 15 年以前発行分は除籍とし、約 5,000~6,000 冊を廃棄しました。今後は書架に収納できなくなれば順次古い分から除籍となります。

これからの展望としては、蔵書をコンピュータ管理とし、院内 LAN を利用して、蔵書検索や新着雑誌の特集記事検索ができるようにしていけたらと希望だけは大きいのですが、まだデータの入力にも着手できていないのが現状です。

結局、どんな図書室なのかよくわからない、と思われたかもしれません。まだまだ発展途上で固まっていない部分が多いのです。歩みは遅いかもしれませんが、当院にもっとも適した図書室を目指したいと思っています。

今後ともよろしく願い申し上げます。



入口からの眺め

向って右側は移動書架、左側には応接セットとテレビ、コンピュータ 2 台がある。角部屋で窓が多く、明るくて圧迫感がないことが良い点。

ANDO Masako

姫路赤十字病院

libmando@hrc-hp.com